

学校インターンシップ	3年・後期	1単位 30時間	准教授 堤ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011323

1. 授業のねらい・概要

学校でなされる教育活動は非常に多様であり、教員や生徒をはじめとして、多くの人が関わることによって成り立っている。本講義は、学生が教員としての職務にとどまらず、学校行事、部活動、学校事務を含む学校での活動全般に実地に関わることを通して、多様な学校での活動を体験することが目的である。教育実習として教員の職務の一部を実践する前に、学校での諸活動に参加し、学校教育現場の実態を学び、教職への理解をより深める。

2. 学修の到達目標

1. 学校の様子や教員の仕事について、学校での活動を通して学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
2. 教員として必要な実践力の基礎を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-3)
3. 学校現場での業務遂行補助等を通じて、教員に求められる資質・能力を言語化する。(D-5)

3. 授業の進め方

学校での教育活動についての基礎的な知識および注意事項の確認を講義形式で行う。実際のインターンシップ終了後は活動内容の報告を行い、受講生同士による討論も取り入れたい。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニング型科目（実習）である。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会

4. 授業計画（実習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	学校インターンシップの目的と意義（ガイダンス）	講義	予習：学外での活動に関する注意事項を確認する（特に教員の服務規程、個人情報の取扱等）。 復習：活動受け入れ先の学校を選定する。	堤ひろゆき
	計 28 時間以上、学校での教育活動を体験する。	実習	予習：教員になった際に求められることを整理する。学校で指示された事項を準備する。 復習：得られた体験に基づき、教育実習等の現場における指導を具体的に準備する。	堤

5. 成績評価の方法・基準

学校現場での活動内容をレポートにより報告することを義務づける。レポート内容は実際の活動時間、活動内容、活動により得られた気づきおよび教職において重要であると考えたこととし、教育実習および教職に就職した際に自分自身で必要になるものを記述する。提出期限はビジネス情報学部授業終了日とする。体験することが目的の科目なので、規定時間を越えた体験を義務づける。評価は、単位認定または不認定のいずれかである。評価基準の詳細は初回授業時に指示する。

評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。ルーブリック評価表に関する詳細は、講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

参考文献は以下の通り。

尾見康博（2019年）『日本の部活』ちとせプレス

青柳健隆・岡部祐介（2019年）『部活動の論点』旬報社

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

受講者自身がインターンシップを行う学校の概要、実態についての調査を各週1時間程度、インターンシップ中には生徒の実態についての気づきや活動への関わりについての振り返りを1時間程度行うこと。

8. 受講上の留意事項

受講者は教育実習が決定している教職課程履修者とし、学校での教育活動への基礎的な知識が求められる。本科目の受講にあたっては年度当初のガイダンス等で十分に受講方法を理解すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

活動報告を受け、口頭または書面による講評を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職課程修了のためには、本科目か「教育活動研究」のいずれかを取得する必要がある。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。